

令和 3(2021)年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立喜連西小学校

令和 4(2022)年 3 月

(様式1)

大阪市立喜連西小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

児童の多くに基本的な生活習慣が十分身に付いていないという状況を真正面に受け止め、「チーム喜連西」として地域・教職員それぞれの持ち味を生かして教育活動を行ってきた。平成30年度より大阪教育大学教職大学院との協働研究『エビデンス・ベースの学校改革』を実践している。「3つの喜連西愛」として児童の行動目標を設定し、教職員全員が共通理解して学業支援と行動支援を行ってきた。大阪教育大学との連携により、客観的なエビデンスデータに基づく継続・改善した指導ができ、児童が安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現に向けて、大きな成果をあげることができている。

学力面においては、学校力UPコラボレーターの配置や平成30年度より大阪教育大学との連携、「校長裁量拡大特例校」の認定により、学力向上を図ってきた。学校現場のリーダーシップとチームワークにより、コロナ禍の中においても、教科教育研究(算数科)や児童会活動の充実、自主学習ノートの取組、話合い活動の推進など、できることを工夫して展開し、学力向上の教育課題に取り組んできた。

大阪市小学校学力経年調査における質問紙「算数の勉強は好きですか」の項目において、令和元年度45.1%、令和2年度60.0%と向上してきた。これらの結果より、算数科の教科教育研究を継続して取り組んできた成果だといえる。今後も、児童の肯定的評価を維持していきたい。しかし、正答率が市の平均の7割に満たない児童の割合は、令和元年度23.9%、令和2年度31.2%と、まだまだ課題がある。基礎的基本的な学習を定着していくことができるよう、継続して、習熟度別少人数授業など、個に応じた学習形態を取り入れ実施する。

○ 大阪市小学校学力経年調査の結果から

本校の平均点は、どの学年においても大阪市平均を上回ることはできなかった。

理科の標準化得点の平均は、97.6と大阪市平均に近づくことができた。理科の観点「思考・判断・表現」において大阪市平均を上回る学年もあり、実験や観察を通して見通しを立てたり自分の考えを表現したりする力が高まってきていることがうかがえる。

算数科においては、大阪市小学校学力経年調査における質問紙「算数が好き」と答えた児童の割合が向上したが、7割に満たない児童の割合の平均が37%と依然として高く、今後も継続して、習熟度別少人数授業など個に応じた学習形態を取り入れ、基礎的・基本的な学力の向上をめざす。

〔質問紙〕

読書習慣を身につけ、読書する楽しさを味わわせ知識を広げるため、週に 1 回、朝の読書タイムを行っている。「読書は好きですか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合が大阪市平均を上回る学年もあり、平野区の「ひらちゃん読書ノート」に継続して取り組み、さらに読書習慣を身につけられるようにする。

また、「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか(73.6% 大阪市 81.9%)」「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか(54.4% 大阪市 67.7%)」の項目において、肯定的に回答する児童の割合が大阪市平均を上回ることができなかつた。算数科の教科研究において、指導者が、問題解決型の学習を意識して取り組んできたが、児童の定着が図れていなかつたことが結果である。今年度は、算数科だけでなく、他教科においても、児童が目標をもって学習に取り組み、振り返りを次の学習に生かしていけるような授業の改善を図る。

また、「朝食を毎日食べていますか」等、早寝、早起き、朝ごはんの項目において肯定的に答える児童の割合が低い結果であった(76.6% 大阪市 84.3%)。家庭と連携を取り、児童の健康や体力を保持増進する力を育成する。

これら明らかになってきた事柄を踏まえ、学校としては、「エビデンス・ベースの学校改革」を継続していく。授業中には、指導者からの称賛の言葉がけを学校全体で更に増やしていくためスクールワイド PBS を全教職員の共通理解のもと継続して実践し、児童が安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)が定着できるよう取り組んでいく。また、自分から進んで取り組んだり、友だちと一緒に力を合わせたり、自分なりに考えたりして楽しさも感じられるようにしていく。

国語科においては、特に、漢字の読み書きに関する反復練習の時間や学習に対する振り返りの時間を効果的に取り入れる。また、学習プリントなどを活用して書く力も高めていくようとする。

算数科においては、計算の力を高めていくための問題を朝の学習等で取り入れる。また、問題解決学習を全ての学年で展開していく。これらを重点として捉え、「言語力や論理的思考の育成」「習熟度別少人数授業の実施」「主体的・対話的で深い学びの推進」「学校力UPベース事業の実施」「大学との連携」等、学力向上に向けた大阪市取組施策の充実強化を力強く進めていく。

自分から(主体性)、友だちと(協働性)、工夫して学ぶ(創造性)子どもを育成するためにも、家庭と連携を図り、「笑顔あふれる学校」に取り組んでいく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

○令和3年度の児童アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか。」の項目について「はい」と答える児童の割合を、75%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和3年度の小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目について「30分より少ない」と答える児童の割合を、令和2年度より5ポイント減少させる。

【その他】

○令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、「体育の授業では、友だちと助け合ったり、役割を果たすような活動を行っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

全市共通目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 年度末の児童アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか。」の項目について「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である長座体前屈の平均記録を、同一母集団で比較し、大阪市平均との差を昨年度より縮める。

学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の項目について「30分より少ない」と答える児童の割合を、令和2年度より5ポイント減少させる。

【その他】

学校園の年度目標

- 令和3年度の小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」の項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

教職員一人一人の持ち味を生かし、「チームとしての喜連西」となって関係諸機関との連携を図りながら、コロナ禍における教育活動を工夫し、できる限り推進するよう努めてきた。平成30年度より、大阪教育大学・大阪市教育委員会と連携し、「エビデンス・ベースの学校改革(行動支援・学業支援)」に継続して取り組んできた。全教職員の共通理解のもと、学校全体で多層支援モデルを基盤とした指導を実践し、児童の基礎的・基本的な学力向上をめざしている。

日々の学習活動の中で、教材・教具の工夫や体験活動を充実することで、児童の興味・関心を高め、授業に取り組む姿勢を育成することができた。また、学校全体で算数科の主題研究に取り組み、児童が達成感・所属感を繰り返し味わうことができる授業改善を実践することができた。

安全な社会の実現においては、「自分にはよいところがある」と答える児童の割合が、昨年とより5.4%向上した。児童の望ましい行動をほめる・認めるという SWPBS 実践の結果であるといえる。学力向上面においては、以前厳しい状況にあるが、令和3年度大阪市小学校学力経年調査において令和2年度と比べると、標準化得点は、6年生国語科においては0.9ポイント、算数科においては1.0ポイントの向上が見られた。

来年度も「エビデンス・ベースの学校改革(行動支援・学業支援)」と主題研究の改善を図りながら継続し、安心して成長できる安全な社会の実現と基礎的・基本的な学力・体力の向上をめざす。

(様式2)

大阪市立喜連西小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

生活指導

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】 全市共通目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○小学校力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を85%以上にする。 ○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 	B
学校園の年度目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○年度末の児童アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか。」の項目について「はい」と答える児童の割合を、75%以上にする。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめに関するアンケートを行い、必要に応じて個別に面談等を行い解消していく。 指標 学期に1回実施する。	B
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 「生活みなおし週間」を実施し、児童に自身の生活態度をふり返らせることにより、規範意識を高める。 指標 学期に3回実施し、自己評価カードを使いふり返る。	B
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 学習活動の中でグループ活動を工夫して取り入れ、互いのよさに気づく場面をつくり、終わりの会等で互いのよさを認め合ったりする場面をつくる。 指標 週に3回以上行う。	B
取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 児童理解に努め、「児童の学習での取り組みや成果を認め、学習に対する関心・意欲を高める指導」を行う。	B

指標 週に1回、学年研修の中で児童の情報を共有し合い、統一した指導を行う。	
取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】 たてわり班活動等を通して、リーダーシップ・フォロワーシップを育てる。	B
指標 たてわり班の集会や、たてわり班活動を工夫して行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①いじめに関するアンケートを学期に1回実施し、必要に応じて個別の面談等を行い、解消に努めることができた。アンケートを行うことで、指導者が気づけなかったことを、大きないじめに発展する前に解決できたり、防止につなげたりすることができた。</p> <p>②学期に3回実施し、終わりの会等で振り返るようにした。生活見直し週間と自己評価カードがあることで、自分の生活を振り返ることができた。そして指導者もその期間により意識を高めて指導を行うことができた。また、それに合ったポジティブフィードバックシールを児童に渡すことで、規範意識を高めることができた。</p> <p>③授業の中で児童の意見を指導者が取り上げたときに、よいところをポジティブフィードバックすることを心がけるようにした。また、今までできなかつたところができたとき等にもポジティブフィードバックすることを心がけるようにした。そのことから、その時や終わりの会等で児童が拍手したり、よいところを見つけたりするようになり、お互いを認め合うようになっている</p> <p>④週に1回以上行い、児童の情報を共有し合い、統一した指導を行うことができた。また月に1回の職員全体の会議で児童の情報を共有するようにした。</p> <p>⑤コロナ禍でグループ活動たてわり班活動を十分に行なうことはできなかつたが、今の状況でできることを工夫して行なうことができた。ただ、リーダーシップやフォロワーシップを育てるまでには至っていない。</p>	
次年度（今後）への改善点	
上記の指標について、今後も継続して指導していく。また、今後もコロナ禍の状況が続くことが考えられる。その中で、リーダーシップやフォロワーシップを育てる工夫、また、集団登校の課題を解決しながら、異学年同士のつながりをより深めていく行事や指導の工夫が必要である。	

（様式2）

大阪市立喜連西小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）
学力・体力の向上

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかつた D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた	年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】		
全市共通目標		B
○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。		
○小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。		

- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である長座体前屈の平均記録を、同一母集団で比較し、前年度大阪市平均との差を昨年度より縮める。

学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目について「30分より少ない」と答える児童の割合を前年度より減少させる。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 教材・教具の工夫、体験的な活動の取り入れ、学習方法の工夫、指導形態の工夫等で、学習意欲の向上を図る。	B
指標 週に1回、学年研修の中で教科ごとの指導方法について話し合い、統一した指導を行う。	B
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 朝の学習タイムを創意工夫し、基礎・基本の定着を図る。	B
指標 週に2回朝学習を行い、ミニプリント等で「できた」「わかった」という気持ちを味わわせる。	B
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 読書習慣を身につけ、読書する楽しさを味わわせ、知識を広げる。	B
指標 週に1回、朝の読書タイムを行う。	B
取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 3～6年生で自主学習ノートの取り組みを進める。	B
指標 月に1回以上行う。	B
取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする子どもを育てるために、算数科をはじめとして、各教科・領域においても話し合い活動を充実させるよう指導する。	B

指標 1日に1回以上、話合い活動の場を設定する。	
取組内容⑥【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】 年間を通して、体力向上のため、体育的行事を計画的に行う。	B
指標 年間2種類（なわとび・マラソン）の体育的行事を行う。	
取組内容⑦【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 家庭学習の習慣を定着させるために学年や学級の実態に応じた適切な課題を設定する。	B
指標 毎日行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①週1回以上、学年研修を行い、教材・教具、学習方法、指導形態の工夫、体験活動の取り入れ方等、学年で統一した指導を行うことができた。その結果、児童が主体的に学習できる場面が増えてきた。</p> <p>②週に2回の朝学習を行い、計算問題や漢字の読み書き練習等に繰り返し取り組み、基礎・基本の力の定着を図った。スマーブルステップで課題を設定したことにより、児童は達成感を味わうことができた。</p> <p>③読書をする楽しさを味わわせ知識を広げるため、週1回、朝の読書タイムを行った。また、読み聞かせ、図書館開放や平野区の「ひらちゃん読書ノート」に継続して取り組んだ結果、読書記録を増やし読書に親しむ児童が多くなった。</p> <p>④月1回以上、自主学習に取り組む機会を設けた。課題設定の例を示したり、取り組み方のアドバイスをしたりすることで、自分で課題を見つけ積極的に取り組む児童も増えた。また、1,2年生でも自主学習に取り組む児童もみられるようになってきた。</p> <p>⑤算数科をはじめとして、各教科・領域において、感染症拡大防止対策を考えながらペアやグループ、全体での話し合い活動を行った。その結果、自分の考えを相手に伝えることができる児童が増えた。</p> <p>⑥体育の学習に体力向上の目的とした活動を取り入れたり、休み時間に学級でみんな遊びをしたりしてきた。また、体育的行事については感染症拡大防止の観点からマラソン週間は実施せず、なわとび週間のみ実施した。様々な取り組みにより多くの児童に運動する機会が与えられ、学校全体の体力向上につながった。</p> <p>⑦学年や学級の実態に応じた課題を設定し取り組んできた。また、放課後学習で個に応じた指導も行ってきた。その結果として、家庭学習を習慣化して取り組むことができた。</p>	
次年度（今後）への改善点	
<p>①習熟担当、特別支援担当ともさらに連携を深め、学年研修をより充実させていく。</p> <p>②児童の実態に応じた内容を工夫し、今後も継続して取り組みを進める。また、デジタルドリルの活用も検討していく。</p> <p>③読書が苦手な児童に対して、読み聞かせや本の紹介などの支援の方法を工夫する。</p> <p>④個に応じた支援をするとともに、家庭との連携も深めていく。</p> <p>⑤次年度においても、感染症拡大防止対策を考えながら、話し合い活動を充実させていく</p> <p>⑥感染症拡大防止対策を考えた、体育的行事を計画し進めていく。</p> <p>⑦引き続き、学年や学級に応じた適切な課題を設定できるようにする。</p>	

(様式 2)

大阪市立喜連西小学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

指導力向上

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【その他】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和 3 年度の小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」の項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 8 施策を実現するための仕組みの推進】 「算数科における学習意欲を高める指導法の工夫」をねらいとして、算数科の授業研究を行う。</p> <p>指標 学年 1 回、計 6 回の授業研究を行う。</p>	B
<p>取組内容②【施策 8 施策を実現するための仕組みの推進】 年間を通して、指導力向上のための研修会を計画的に行い指導に活かしていく。</p> <p>指標 年間 3 回以上行う。(算数科、エビデンス・ベースの学校改革など)</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>前年度と比べると大幅に減少しており、目標を達成するに至らなかった。</p> <p>①計画通りに行うことができた ②夏季の ICT 研修で学んだプログラミングの技術やアプリなどを授業で活用し、授業力向上に活かすことができた。研修を計画的に行い、研鑽を積むことができた。</p>	
次年度（今後）への改善点	
<p>児童に 1 時間の授業の流れが身についた。研究教科が変わっても、引き続き基礎的・基本的な学力の「定着」を目指した指導を行っていく。各学年の課題を次年度の学年に引き継ぎ、苦手な部分を解消できるように取り組んでいく。</p> <p>算数科の学習だけでなく、他教科の学習においても、「できた」と達成感を感じられるよう、ポジティブフィードバックを行っていく。</p> <p>次年度、研究教科が変わった場合、「年度目標」「取組内容」について考える必要がある。</p>	